

# スギ穿孔性害虫の被害とは

- スギカミキリとスギノアカネトラカミキリの被害の違い -

## 1 はじめに

伐期に達したスギ・ヒノキを伐採して市場に出しても、材部が変色して売り物にならなかったということがあります。これはスギ・ヒノキ穿孔性害虫の加害によるもので、岩手県ではスギカミキリとスギノアカネトラカミキリによる加害が大きな問題となっています。

この2種類のカミキリは生態が異なるので、防除法も異なるのですが、現場ではどちらの被害か区別していない例がみられます。

防除の第1歩は加害種の正しい判別ですので、ここでは両者の被害の違いについて、情報提供します。

## 2 外観による判定

両者とも幼虫の食害部分の材が変色します。

スギカミキリは樹幹下部の甘皮部分を食害するので、被害は樹幹下部にみられます。被害形態として、成虫の脱出孔（長径1cm程度の楕円形の穴）や、食害部分が巻き込まれて形成される縦筋状の食害痕などが挙げられます。

スギノアカネトラカミキリは衰弱した枝から

食入し、材内部を食害します。このため、外部から加害の有無を判定することはできません。落下した枝の断面から食入の有無を推定するか、誘引器調査で成虫の存在を確認するなどの間接的な方法があります。

## 3 伐採丸太による判定

伐採丸太の木口面を観察することで正確な判定ができます。

スギカミキリの食害部分はフラス（幼虫の糞や木屑の固まり）の閉じ込められた巻き込みが生じます。食害部分から樹幹中心方向にむけて扇型の変色がいります。樹幹垂直方向への変色はあまり広がりません（写真-1）。

スギノアカネトラカミキリの食害部分に巻き込みは生じません。侵入した枝を中心に樹幹上下方向に往復して食害するので、木口断面には2~3mm程度のとの粉を詰めたような穴がみられ、そこを中心に変色します。変色は樹幹中心、垂直方向ともに広くはいります（写真-2）。

下の表に両種の被害の違いをまとめてあります。



写真-1 スギカミキリ被害丸太の木口面



写真-2 スギノアカネトラカミキリ被害丸太の木口面

表 スギカミキリとスギノアカネトラカミキリの被害の違い

	スギカミキリ	スギノアカネトラカミキリ
被害部位の高さ	樹幹下部 (主に2m以下)	樹幹上部 (枯れ枝の発生しやすい部分)
被害を受ける組織	幹の甘皮部分	枝および幹の材部
外観による判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱出孔の有無</li> <li>巻き込みによる食害部の癒合痕の有無</li> </ul>	不能 (落下枝などから推定は可能)
木口面による判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>フラス(木くず+虫ふん)を伴った食害部の巻き込み</li> <li>巻き込み部分から幹中心方向にむけて扇型、灰黒色の変色</li> <li>幹上下方向にはあまり変色は広がらない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>侵入した枝を中心に、材部に形成されるとの粉を詰めたような2~3mmの楕円形の食害された穴</li> <li>食害部の周囲に不定形、黒褐色の変色</li> <li>幹上下方向にも広がる(食害部の端から1m以上の場合も)</li> </ul>

(担当 森林資源部 主任専門研究員高橋健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
 岩手県林業技術センター  
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536  
 F A X 019-697-1410